

琉球大学学術リポジトリ

ジカウイルス感染症における公立中学校教師の知識、態度および実践：フィリピンの学校におけるエビデンスに基づいたジカウイルス感染症教材の開発の基礎

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ernesto, R.Gregorio Jr. メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019322

2021年11月8日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏名 平井 到

副査 氏名 山城 哲

副査 氏名 豊里 竹彦



学位（博士）論文審査及び学力確認の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び学力確認を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	氏名 Ernesto R. Gregorio, Jr.		
成績評価	学位論文 <input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	学力確認 <input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	
論文題目	Knowledge, attitudes, and practices of public secondary school teachers on Zika Virus Disease: A basis for the development of evidence-based Zika educational materials for schools in the Philippines.		
審査要旨 (2,000字以内)	<p>フィリピンでは、蚊媒介性のウイルス感染症であるジカ熱の発症のリスクがある。コミュニティにおけるジカ熱発症への対応の一つとして、学校における健康教育（衛生教育）がある。本研究は、フィリピン・ケソン市の secondary school 8校の609人の教員を対象として、KAP 調査によって、ジカ熱に関する知識 (Knowledge)、態度 (Attitude)、行動 (Practice) について評価することを目的として行われた。その結果、ジカ熱に関する情報は大多数の対象者はテレビ、印刷物、ラジオなどから得ており、ジカ熱が蚊媒介性であるなど正しい「知識」を得ていることが示唆された。また、「態度」の面でも、大多数の対象者は「妊婦はジカウイルス感染の検査を受けるべき」など考えていることが示された。「行動」については、対象者の家庭に設置してある、「飲料水のコンテナをどれくらいの頻度で清掃しているか」を指標に評価されたところ、約半数の対象者が1週間以内に清掃していると答えた。これらの調査をもとに「ジカウイルスの感染」と「正しい知識</p>		

の保持」もしくは「正しい態度」についてその関連性を検討したところ、1か月の収入、居住地について、「正しい態度」との間に統計的に有意であると示された。

本審査においては、本研究について、その研究背景や、結果、考察などに関するプレゼンテーションが行われた後に質疑応答が行われた。プレゼンテーションにおいては、予備審査時に指摘されていた点を踏まえ修正された資料が用いられていた。具体的には、ジカウイルスの基本知識、ジカ熱の疫学、兆候・症状についての説明や、「ジカ熱の兆候」や「ジカ熱の症状」と、ジカ熱に関する「正しい知識の保持」もしくは「正しい態度」との関連性などについても検討されたデータが発表されていた。また、本博士論文で示されていた表における数値の取り扱いやその意味についても正しく説明された。プレゼンテーション後の質疑応答においては、示されたデータの解釈、データ解釈に対する申請者の考え、今後行われるべき疫学的介入など多彩な質疑応答がなされたが、申請者は質問の意図を正しく捉え、的確に自分の考えに基づく返答を行うことが出来た。

以上のように、申請者は本研究を十分に理解し質疑応答をすることができており、主査、副査から出された修正事項についても正しく対応することができた。また、本博士論文は、国際英文誌「Plos One (<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0214515>)」に掲載された学術論文を基に作成されていることから、「学位論文」、「学力確認」とも合格とした。